



指揮

演出

杉原 直基

三浦安浩

副指揮／木元陸人

合唱指導／塚田馨一

コレペイトール／藤原恭子 守屋亜樹
三輪菜 奥村果歩

演出補／山田かおり

美術／高村由紀子

照明／吉田茂夫(ライスプランナーズユニオン)

大道具／アクトコール

ヘア・メイク／藤原宏行

衣裳プランナー／坂井田操

衣裳製作／賀集友子 岡本赫子

舞台監督／下沢要

Andrea Chénier あらすじ

フランス革命直前のパリ郊外にある伯爵家。大勢の召し使いたちが夜会の準備に働いている。従僕のジェラルムは老骨に鞭打って働く父の姿を見て貴族社会への反発を強める。

伯爵令嬢のマッダレーナは着飾りより自由でいたいと、侍女のベルシと無邪気に話している。夜会には詩人のアンドレア・シェニエも友人たちと登場。パリの不穏な政治状況が話題になるが、すぐのどかな牧歌劇が演じられる。ジェラルムが貧しい民衆を引き連れて夜会に現れ窮状を訴える。伯爵夫人に非難されたジェラルムは民衆とともに出て行き、やがて革命派の活動家となる。

5年後、ロベスピエールの部下となったジェラルムは、混乱したパリの街でマッダレーナを探している。侍女のベルシは娼婦となってマッダレーナをかまわっている。密偵がベルシやシェニエの動向をかぎまわっている。シェニエはパリに留まり、マッダレーナと再会、彼女をジェラルムの手から逃がす。シェニエとジェラルムは決闘となる。

ジェラルムは告発状に署名し、シェニエを捕らえるが、そのことに悩む。シェニエは自らの命を懸けて祖国愛を語る。マッダレーナも牢獄の死刑囚の身代わりとなり、シェニエとともに、断頭台のある広場へと運ばれていく。一緒に死ぬる幸せを高らかに歌い「栄光の死を!」と叫ぶ。



フランス革命の時代に実在し、ギロチンの露と消えた若き詩人をモデルにした悲劇。ヴェルディ後のリアリスティックな作風・潮流を代表するジョルダナーノの最高傑作。革命に巻き込まれた詩人と貴族の娘の純愛が描かれ、数々の美しいアリアと二重唱が悲劇を盛り上げている。



札幌文化芸術劇場 hitaru

札幌市中央区北1条西1丁目 札幌市民交流プラザ4F
「大通」駅 30番出口から西2丁目地下歩道より直結 徒歩約2分

全席指定	SS席 ¥12,000	S席 ¥10,000
	A席 ¥8,000	B席 ¥6,000
		C席 ¥4,000

お取扱い 道新プレイガイド ☎ 0570-003-871



Webでのお申し込みはこちら
<https://doshin-playguide.jp>

市民交流プラザチケットセンター (北1西1 札幌市民交流プラザ2階)

セコマコード D24012102

※セイコーマート店内マルチコピー機から申込み、レジで購入。
※セイコーマートでの販売は、公演日7日前までとなります。ご了承ください。

お問合せ LCアルモーニカ事務局 ☎ 090-7050-9007
✉ armonica.ciao@gmail.com

チケット好評発売中!